

ぼくのノート

⑤9 更地からの出発

「こんなこと、子どもに任せられない」
彼は小さい時から住み慣れた、自分の家の解体を決めた。亡父が建てた思い出の染みついた自宅。その地を子に継ぐため、更地とした。

「奇跡の鉱物」と呼ばれたアスベスト。かつては住宅の建材で使われたが、その発癌性が問題となり、今は使用できなくなつた。アスベストを使った建物を撤去するのにも、その解体費用は高額となっている。

飽くなき至福を謳歌し、残されたツケは次の世代に丸投げ。海や大地は汚染され、空気や食べ物は害がないかを疑う。そんなところから出発するのは、子どもたちにとって、あまりにも理不尽ななし。

その更地には簡易的な車庫が建てられた。そこで愛車を眺める悪友を見て、実はこれが目的だったのではないか、と勘ぐってしまふ自分の心も汚れている。



認定NPO法人 いわき放射能市民測定室

たらちねクリニック

院長 藤田 操